

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2009年 [平成21年] 6 / 4 [木曜日]

## エコな動力の 浄化システム

横浜で飲料水化美演

太陽光と風力をポンプなどの動力として利用、海水や河川の水を浄化して飲料水にできる「移動型海水飲料水化システム」の実演会が3日、横浜市中区の山下公園で行われた。

経産省所管の民間活力開発機構（東京）の主催で、日本や世界の水問題を話し合うセミナーも開かれた。

システムは横浜市のポンプ製造会社ベイシステックが昨年、開発。中型トラックに搭載でき、1日に約3500人分の飲料水を供給できる。将来は1日8千人分の供給を目指す。災害地や水不足に悩む地域での活用が期待される。

山下公園で行われた実演では、一般市民のほか水不足に悩むアフリカ諸国の大使館関係者ら約100人が参加。横浜港から海水がくみ上げられ、特殊なフィル

横浜市中区の山下公園で行われた「移動型海水飲料水化システム」の実演会



ターを通して飲料水に。水を試飲した男性(58)は「カルキ臭がなくてすごくおいしい」と笑顔で話した。

セミナーでは日本学術会議の黒川清前会長が「きれいな水が供給されないことで死んでいく子どもたちが世界には何百万人もいる」と訴え、民間活力開発機構の里敏行理事長は「世界で水に悩んでいる人々の一助になればうれしい」と話した。